

アイテクノロジー

ベーシックコース

REIKO REAL ACADEMY

1. アイソロジーについて

目は自律神経失調の原因で血流障害が生じ、目が酸素不足、栄養不足になったのを補うため、健康酸素(濃度40%)の吸収をさせながら中医学に基づくツボ刺激「アイソロジスト療法」で、足・手・耳・頭部そして目の周囲に血の流れを作り、独自に開発したアイソロジスト器4種で身体全体の自然治癒力を高めていきます。また、目の外輪筋、眼筋を鍛えます。それらにより脳へ刺激も高まり、脳が活性化し脳のストレスや疲れが解消され、体全体のバランスが整い、目に対する負担が取り除かれ、血流もよくなります。

1. 目と美容・健康について

美容で一番大切なことは健康であることです。自律神経失調症で胃経や脾経の働きが悪く、血流障害を起こし、皮膚も肌もカサカサし、青白く常時「酸素」と「栄養失調」に気がつかない人が多くいます。顔の中心の“目”は美容には大切な場所です。目の老化はまぶたが垂れ下がり、目の下は筋肉のこわばりによりつっぱり、徐々にクマ、タルミになり、最後にシワへと変化していきます。そして、目の周囲の眼筋も視力も落ち込んで、自分自身の目の周囲の老化スピードにまったく気づかず老化顔に変化します。変化してからは化粧品の手当てには限界があり、自分の美の財産や健康の財産を失っているのです。

目は肝経に深い関係があり、目の施術は脳と体全身を健康に導きます。そして、美の基本は肺経にあり、肺経は皮膚を支配しており酸素の流れが細胞を活性化します。人間の最大のエネルギーは酸素なのです。

目の美容院では目に特化した施術を行うことにより美と健康に導いていきます。

2. 目について

1. 目の歴史

目の誕生は約6億年前にとされています。それは海で生まれ、光をエネルギー源にした有機体で、光を利用するチャンスの歴史と言われています。生命の誕生は約40億年前頃、しかしそれはまだ核酸そのもので、その核酸を守ろうと細胞が出来その期間は約20億年もかかっているとみられています。細胞の誕生とともに光エネルギー利用が始まり、海の中で目が誕生しました。海の中では空気中より当然光が通りにくく、鮮明な情報を得ることはできませんでしたが目が乾かない最大の利点がありました。その後、陸上活動が始まりましたが、そのころの目は現在のまぶたのような存在であったと考えられています。(魚の鱗から皮膚ができた時、眼も一緒にカバーされていたと考えられていて、人間の胎児を例とすると、お腹の中では眼の上にも皮膚が被さっておりしばらくして上下のまぶたに分かれます)そして、もう一つの海、涙を作る涙腺の発達し、目の部分は皮膚のように海を体内に閉じ込めたのではなく海をそのまま持ち込んだもので、目を乾かすことなく維持することが出来るようになりました。

2. 眼球の構造とはたらき

目は人体で最も高度に細分化した精密機械ともいえます。そして、精密機械であるゆえに体が不調になるといち早くその影響を受けやすいと言う事が出来ます。

① 虹彩(コウサイ)

黒目(瞳孔、図2-②)の周囲にある茶色の部分。色素であるメラニンが含まれており、日本人はこの色素が多いので茶色になり、白人は少ないから青くなる。瞳孔の大きさを変え、通過する光の量を調節している。カメラの絞りに相当。

② 角膜(カクマク)

黒目と虹彩の部分を覆っている膜。厚さは1ミリ程度で、光を屈折して集めているために透明で湾曲している。透明な角膜を通過して瞳孔から目の奥に入った光は、中で吸収されて反射しないので、角膜の瞳孔部分が黒く見える。外から来る光を屈折して集める働きと、強膜とつながって眼球の形を保つ働きを担っている。

③ 結膜(ケツマク)

白目(図2-③)を覆う透明な膜で、強膜を守る。近年、結膜を角膜に移植すると角膜の役目をする事がわかってきた。

④ 水晶体(スイショウタイ)

瞳孔の奥にあるが、透明なので通常、外からは見えない。毛様体の伸縮によって厚みを変えることが出来るレンズで、遠近の調節を行う。また、目に有害な紫外線を吸収して網膜を守る大切な働きをしている。

⑤ 毛様体(モウヨウタイ)(毛様体筋・水晶体小帯)

虹彩のすぐ後ろに続く。ピントを合わせる毛様体筋と水晶体をつなぐ水晶小帯で出来ている。毛様体筋が伸びたり縮んだりする動きによって、水晶体小帯が水晶体の厚さを調整している。

⑥ 強膜(キョウマク)

眼球の一番外側にあって、眼内圧(眼圧=内から押す力のこと)を支え、目の形を維持する働きを担っている。白目は強膜の一部。

⑦ 脈絡膜(ミヤクラクマク)

毛様体に続いて眼球の後ろ半分を包んでいる膜で、網膜と強膜の間に挟まれている。血管がたくさんあり、眼球の膜に酸素と栄養を供給している。

⑧ 網膜(モウマク)

目の一番奥にある膜。光や色を感知するための視細胞があり、さらに情報処理を行うための神経ネットワークが張り巡らされている。

⑨ 黄班部(オウハンブ)

水晶体から入った光があたる網膜の中心部分。

⑩ 黄班中心窩(オウハンチュウシンカ)

直径約1.85ミリの黄班部の中心部分。焦点が1ミリでもこの部分から離れると視力は0.1になる。

⑪ 視神経乳頭(シシンケイニュートウ)

網膜からの視神経をすべてここで束ねて、脳へ信号を送っている部分。

⑫ 硝子体(ショウシタイ)

水晶体から奥の、眼球の大部分を占めている部分で、無色透明の光の通り道。硝子体液と呼ばれる透明なゲル液が詰まっています、眼球内の圧力(眼圧)を一定に保つとともに、網膜を傷つけないようにクッションの役割も果たしている。

⑬ 前眼房・後眼房(ゼンガンボウ・コウガンボウ)

角膜と水晶体の間の空間は、虹彩を境として。

⑭ 隅角(グウカク)

虹彩と角膜の空間。ここが狭くなったり閉塞したりすると、房水が排出されないで前眼房にたまり眼圧を上昇させ緑内障の原因となる。

⑮ シュレム管

房水の排出口。

3. 眼球の付属器官

① まぶた(眼瞼ガンケン)

カメラでいえばレンズキャップとシャッターとをかねた役割を果たす。

② 黒目(瞳孔ドウコウ)

一般にひとみ(瞳)というが、医学用語では瞳孔。

③ 白目(眼球結膜)

茶目の周囲、目の一番外側にある白い部分で、強膜の一部。白目の表面が透明な結膜におおわれていて、その下にある白色の強膜が透けて見えるから白い。眼球の形を保っている。

④ 虹彩

1-1-①を参照

⑤ 涙腺

潤滑液である涙を結膜に供給する。

⑥ マイボーム液

常に脂肪を分泌している腺で、涙の表面に油層を形成して涙の蒸発や流出を防止している。

⑦ 涙点

0.3~0.7ミリの大きさの涙の出口。蒸発しないで残った涙はここから鼻腔に排出される。

⑧ 涙小管

涙点と涙嚢(ルイノウ)をつなぐ管。上下2本ある。

⑨ 涙嚢

縦長の袋で、涙をためて鼻涙管(ビルイカン)に流す。

⑩ 鼻涙管

涙嚢殻に流れてきた涙を鼻腔に出す。

4. ものが見える仕組み

物体から反射した光は、まず角膜で大きく屈折させられて瞳孔から入ります。その光は、形状を変化させることで屈折度をかける水晶体で網膜に焦点が合わせられ、硝子体を経て網膜に届きます。網膜に届いた光は、像を逆さに結びます。その信号が視神経を経て大腦に送られ、そこで逆さの像が修正され、物体が認識されてはじめてものが正しく見えるのです。

5. 近視になる仕組み

近視とは「近くが見える」という意味ではありません。角膜・水晶体で屈折された光が網膜の黄班部に焦点をうまく結べず、網膜の手前に焦点を結んでしまう状態をいいます。そのため遠くのものには近づかないと見えにくくなるのです。遠くは網膜上で光が広がってしまいぼやけてしまう。

1. 屈折性近視・・・レンズの湾曲が大きくなって光の屈折率が高くなる。
2. 軸性近視・・・眼球が前後に長くなる。
3. 仮性近視・・・毛様体が持続的に緊張を強いられ、一時的に収縮力を失う。

6. 遠視になる仕組み

遠視とは「遠くが見える」という意味ではありません。角膜・水晶体の屈折力が弱かったり、眼軸の長さが短かったりして、網膜の後ろで焦点を結んでしまう状態です。そのため、近くも遠くもはっきり見えません。

ちなみに、メガネの『遠用・近用』は近視・遠視・乱視の人向けが『遠用』で、老視(老眼)の人向けが『近用』です。

1. 屈折性遠視・・・レンズの湾曲が小さくなる。
2. 軸性遠視・・・眼球が前後に短くなる。

7. 乱視になる仕組み

乱視は、角膜や水晶体が歪んでいるために光の縦軸と横軸の焦点がずれ、網膜のどこにも像を結ぶことが出来ず、ぼやけて見える状態です。

ちなみに角膜の歪みによるものが90%ぐらいで、残り10%ぐらいは水晶体のゆがみによるものです。

8. 老眼になる仕組み

老眼は、**水晶体の硬化による調節機能の低下**が主因と考えられています。老化や白内障などによって水晶体が硬化すると、厚くなることができなくなり、遠くのものには焦点が合いますが、近くのものには焦点が合わなくなります。

3. 目と身体の関係

1. 目を見ればわかる心身の状態

「目は口ほどにものを言い」と昔から言われるほど身体の状態を表します。体調のよい人は目がキラキラ輝いていますし、逆に体調が悪い人は目がどんよりしています。また、目を見ればその人の精神状態をつかむことができます。それは、**目は脳と直結している**ため身体の状態とともに心の状態も反映するのです。

2. 白目、黒目の変化でわかる全身状態

白目は、病気の場合、黄色くなったり、青くなったり、赤くなったりすることがあります。

黄色・・・黄疸(オウダン)という状態で、肝臓病が疑われます。

青色・・・貧血が疑われる。

充血・・・ストレスや水分不足・運動不足などが原因で血流障害が疑われる。

※充血以外で赤くなる場合は出血が疑われる。

黒目(瞳孔)は、**自律神経**によって大きくなったり、小さくなったりします。**交感神経**が優位の時は広がり(散瞳)、**副交感神経**が優位な時は縮まり(縮瞳)ます。

自律神経

知覚や運動神経とは違って自分でコントロールすることができない内臓や血管をコントロールする神経です。呼吸をしたり、消化するために胃を動かしたり、体温を維持するため汗をかいたりするのは自律神経があるからです。

自律神経には交感神経と副交感神経があり、お互いに相反する働きをしています。

例えば、交感神経が血管を収縮させ心臓の拍動を増加させるのに対し、副交感神経は血管を拡張させ、心臓の拍動を制御します。

交感神経・・・おきている時の神経・緊張している時の神経

副交感神経・・・寝ている時の神経・リラックスしている時の神経

自律神経失調症とは？

不規則な生活習慣、ストレスなどにより、自律神経のバランスが乱れることでおこる様々な身体の不調のことです。内臓や器官の病変によるものではないので病院で検査をしても「異常なし」と言われてしまいます。

3. 目の健康は全身の健康状態を超えない

このように、目の健康度と体の健康度とは密接に関係しています。東洋医学では、「14経絡」のうち8つが目と関連があります。人間の気官は有機的につながってそれぞれに関係をもっており、体のある部分の不調はほかの部分にも影響を与えているのです。したがって、目だけ健康であるとか、目以外は全て健康ということはありません。

その全身の好不調が特に目によくあらわれるのは、目が人の人体のなかでもっとも栄養素を消費するところであるため、体調の影響を特に受けやすくなっているからです。

4. 目を流れる血は全身からきている

目を流れる血液は全身をながれてくる血液と同じで、心臓から目へ直接流れる血管はありません。全身を回ってきた血液が目にも入り込んでいます。

全身を流れる血液は、細胞の一つひとつに酸素と栄養素を運び細胞のエネルギー代謝活動できた老廃物を回収します。新陳代謝をよくするためには、きれいな血液と順調な血流が必要です。

つまり、体全体の血液の状態をよくすることが、目の健康にも重要なのです。

5. 血行不良が目の病気を引き起こす

健康体と病気を分ける条件にはいろいろな要因があげられますが、根本的なこととして血管と血液の状態があげられます。

心臓から出た動脈の血液は体の各細胞に酸素と栄養素を運びます。静脈は代謝活動(細胞での物質の合成や分解)によってできた老廃物や有害物を解毒・排出する器官へと運びます。血液は全身を等速で流れることが重要です。血液がサラサラでよく流れていれば、全身の細胞に栄養と酸素が十分供給され、代謝産物が回収されるので、新陳代謝が盛んになり健康を維持できます。逆に流れが悪い血液はドロドロしており、さまざまな病気を引き起こす原因になります。ガンも血流が悪いところから発生しやすくなります。目の病気の原因も多くはこの血行不良によるものです。

6. 血液循環は目の水分の代謝にも影響

目は水分が多く非常にむくみやすい器官で、まぶたを強くこすると水がたまったり腫れやすくなったり、結膜を強くこすると水分がたまって水ぶくれになってしまいます。

目の状態をよくするためには、水分の出入りをよくすることが大切です。そして水分をかい出して

むくみを取るためには血液の流れが順調であることが必要です。血液がドロドロしていて血液循環が悪くなると、水分が滞るので目は濁ってむくんでいきます。こうなると視力にも悪影響を及ぼします。目の健康を守り、目の病気を予防・改善するうえで重要なことは、目の血液循環が良好であること、水分代謝がよい状態で保たれていることです。きれいなサラサラとした血液が目の隅々まで流れていると、さまざまな目の病気が予防・改善できます。

7. 血管の状態も関わる血の流れ

血液の流れは、血管の状態にも深く関わっています。しなやかな血管は血液を順調に循環させます。しかし、かたくなって動脈硬化を起こした血管では、血液の流れが悪く、必然的に血圧も高くなります。動脈硬化が進行するといろいろな病気を引き起こすことは、目においても同じです。このように、目の血管の動脈硬化が進み、血液がドロドロした状態が長年続くと白内障や緑内障、黄斑変性症、眼底出血などの重大な病気の原因になっていきます。いわゆる目の生活習慣病を発祥してしまうのです。

しなやかな血管とサラサラした血液こそ、目の病気を予防し健康を保つ秘訣なのです。

8. 健康を害する活性酸素

私たちの健康を害し、目にも影響をもたらすものとして、**活性酸素**の問題があります。太陽光線に含まれる紫外線、喫煙、過剰なストレス、有害化学物質などの影響を受けると、大量の活性酸素が体内に発生します。この**活性酸素が細胞を酸化し、老化を促進**します。そして、ガンや動脈硬化をはじめ、さまざまな病気を引き起こし、悪化させることがわかっています。目においても同様で、**活性酸素は白内障、緑内障、黄斑変性症などの目の生活習慣病を招く元凶の一つ**になります。

カロテノイド(植物色素)は生活習慣病を抑制する

目の中はカロテノイドの一種であるルテインとゼアキサンチンで守られています。紫外線、青色光をあびると、このルテインとゼアキサンチンが水晶体と黄斑部を守ってくれるのです。

カロテノイドとは、生物界、特に植物界に広く存在する**黄・橙・赤・紫色の天然色素の総称**で優れた抗酸化作用を持ち、美肌やシミ予防、目の健康やガン予防などに効果を発揮すると言われていています。

- ・ カロテノイドは人間の細胞の腐敗剤の役割をしてくれる。
- ・ カロテノイドは細胞の代わりに自分が参加してくれる物質。
- ・ 人間は自分の体内でカロテノイドを合成することはできない。
- ・ 抗酸化作用が確認されたのはルテイン、ゼアキサンチンとリコピンだけ。

<カロテノイドの種類と作用部位>

種類	含まれる植物	作用する部分
ルテイン	緑色の葉野菜 キャベツ・ほうれん草など	目・大腸・子宮
リコピン	赤色の野菜 トマト・杏・スイカなど	乳腺・肝臓・膀胱・前立腺

β カロテン	黄色の野菜 ニンジン・カボチャ・ブロッコリなど	すい臓・心臓・骨
α カロテン	黄色の野菜 ニンジン・ライ豆など	肺・皮膚
<u>ゼアキサンチン</u>	橙色の野菜・果物 枝豆・オレンジ・マンゴーなど	目・皮膚

3. 中医学・経絡について

1. 中医学について

人間の体にはエネルギーの通る道筋「経絡」と呼ばれているものが全身にくまなく網目のようにいきわたり、全身を網羅する14経絡は生命の基本的なエネルギーというべき「気・血」を運び、中医学では、そのエネルギー循環が滞りない状態が健康とされています。経絡上は「経穴」(けいけつ)つまりツボが361存在しています。この経絡上に臓腑の変調や体表に異常をあらわします。その経絡上の乱れを上手に把握し、また判断し、施術しています。

2. 気・血・水の理想バランス

東洋医学の体のバランスとは「気(キ)」「血(ケツ)」「水(スイ)」のバランスをおさします。

気：元気・陽気・活気・眠気など「気」の付く言葉は身近にたくさんあります。

“元気”は生命活動の根本の「気」で原動です。

血：全身に栄養分と酸素を運びます。“気めぐれば血めぐる”といわれ、気の移動により血液循環が行われます。

水：唾液・胃液・腸液・涙・汗・尿・血液など体内を満たしている水液です。体内の臓器・組織皮膚・粘膜を潤し養います。

体内に働きの弱まった部分が生じて「気」「血」「水」のうち1つの要素でも異常が発生すると他の要素に悪影響を及ぼします。その結果、身体全体のバランスが崩れてしまいます。そしてアンバランスな状態が続くと病気になってしまいます。

例えば、「気」が不足すると「血」の循環が滞り、体内の諸器官は栄養不足と酸素不足になってしまい、その結果、諸症状があらわれ病気になったりするのです。

3. 内臓ごとにある12の経絡について

経絡とは人体を流れる気血の道筋です。ツボを刺激することで、経絡の気血の循環が促され、体を正常な状態に戻すことができます。

ツボを刺激するときは、その刺激が経絡をめぐっているとイメージすることが重要です。経絡の中で基本となるのが12臓腑に対応した12正経(肺経・大腸経・胃経・脾経・心経・小腸経・膀胱経・腎経・心包経・三焦経・胆経・肝経)と、これらの経絡のバランスを調整する督脈、任脈です。合わせて14経絡といいます。

14経絡は、陰経と陽経の二種類に分けられます。陰経は身体の下から上に流れる経絡で、陽経は上から下です。両手は上げた状態で見ますので、指の先が一番上になります。一つ一つの経絡はそれぞれ役割があり、内臓の働きや血液や体液循環など、身体の動きの全てがカバーされています。他の経絡も多くありますが、流れは経絡と経絡で連動しますので、この14経絡に対するアプローチで身体全体をカバーできます。

① 肺経(陰)

肺臓の経絡で呼吸、体内の水分調整、皮膚、鼻と関係があります。

肺は空気を体内に取り入れ、全身に供給する役割を果たしています。同時に古くなった気を外に排出し、体に新しい気を取り込む働きがあります。肺の機能が弱ると、口が渇く、顔がのぼせる、胸が苦しくなる、咳、動悸などの不調が現れます。また、肌はカサカサになって艶がなくなり、声はか細く根気が続かなくなります。

② 大腸経(陽)

肺経と非常に密接な関係にあります。大腸経が正常であれば、便通がよくなり、食欲も安定します。大腸経に異常があるときは、下痢や便秘といった腸の不調だけではなく、白目の黄ばみや喉の腫れ、歯の痛み、鼻の疾患が生じます。

③ 胃経(陽)

胃は食べ物を取り入れて消化するという、生命維持にとって非常に重要な役割をもっています。胃は先天の性質よりも、生まれてからの生活が性質を左右します。胃経の不調のシグナルとしては、皮膚の黄ばみや黒ずみ、唇の荒れ、腹鳴り、情緒障害などがあります。胃は脾臓と連携して食べ物の消化・呼吸を行うので、脾経とも関係の深い経絡です。慢性的な不調がある場合は、左側の経絡を重点に刺激します。

④ 脾経(陰)

胃から運ばれた消化物を取り込み、五臓六腑に送り込む働きがあります。

脾臓は胃と表裏一体の関係にあり、胃と脾は互いに助け合いながら「消化・吸収・運搬」という重要な機能を果たしているのです。脾経が乱れると、胃の痛み、吐き気、下痢・便秘、舌のこわばり、身体のたるさとなって現れます。

⑤ 心経(陰)

心臓の働きや精神と関係の深い経絡です。

心臓は五臓の中心的な臓器で、全身に血液をめぐらせて、身体の諸器官に栄養を運びます。

心臓を病むと、喉の渇き、白目の充血・黄ばみ、みぞおちの痛みなどの症状に呈します。

心臓に変調をきたしている人は、顔は赤くほてり、時に舌に紫色のうっ血が生じることがあります。

⑥ 小腸経(陽)

小腸は胃で消化された食物の栄養を吸収し、残りを大腸や膀胱に運ぶ役割をもっています。小腸経の環境が滞ると難聴、頭重感(ズジュウカン)、喉の痛みなど、特に頭部の不調となって現れます。ひどくなると、肩や腰に激痛がはしることもあります。

⑦ 膀胱炎(陽)

14経絡の中で最も長く、重要なツボがたくさん集まっています。

内臓の不調が現れた場合、必ずこの経絡のツボに反応するといわれます。膀胱経はあらゆる臓器と関連するため、循環が悪くなった時に現れる症状は多岐に渡ります。なかでも、頭痛、鼻の疾患、眼精疲労など頭部に不調が出るのが多く見受けられます。

⑧ 腎経(陰)

生命活動のエネルギーの蓄え、生殖機能、水分代謝や呼吸を調整します。脳、毛、耳、骨髄、尿道とも関連する経絡です。腎が弱ると顔は黒ずみ、骨や歯がもろくなり、毛髪は抜けやすく白髪が多くなります。また、立ちくらみ、喉の痛みなどの不調も出ます。この様な自覚症状や身体が疲れて力が出ない時は、腎経に有るツボを刺激すると力が湧いてきます。

⑨ 心包経(陰)

中医学では重要な臓器である心臓には、膜があると考えられています。この膜を心包といいますが、心包は固有の機能をもたず、心臓を保護し、邪気から守る役割を果たしています。心包に異常があると、心臓の異常と同様の不調が現れます。心臓の不調がある時は、胸の中心にある膻中(ダンチュウ)のツボをさわるとしこりや痛みが感じられ、顔の赤み、手の平のほてり、動悸、わきの下の腫れなどがあります。

⑩ 三焦経(陽)

人間の生命エネルギーは2つに分けられ、生まれつき持って生まれた先天のエネルギーと生まれてから食物や大気から取り入れる後天のエネルギーがあります。

三焦は五臓六腑を調整し、後天の気を補う働きがあります。また、三焦は上焦(横隔膜より上)、中焦(横隔膜からへそまで)、下焦(へそから下)に分けられ、上焦は心・肺、中焦は脾・胃、下焦は腎・膀胱・小腸・大腸と関連しています。

⑪ 胆経(陽)

肝臓と連携して働き、肝臓で作られた胆汁(タンジュウ)は、胆のうにためられ、脾と胃の消化吸収作用を助けています。胆肝は、人の精神と関わりがあり、胆肝が弱ければストレスを受けやすく、病気になりやすくなります。胆を病むと白目が青みがかり、皮膚の艶がなくなります。

⑫ 肝経(陰)

肝臓は身体の内外の毒素を排除する解毒器官です。また、気血の流れをよくしたり血をためたりする役割を担っています。肝経の不調は目に現れます。目のかすみ、斜視、ドライアイなどを起こしやすくなります。女性の生計周期、妊娠などとも関係が深い経絡です。精神活動とも密接な関係があり怒りっぽくなったり憂鬱状態に陥ったりします。目は肝経が支配しています。

⑬ 督脈

奇経8脈の一つで12正経の陽の経絡(胆・小腸・三焦・胃・大腸・膀胱)の流れを調節する機能を持つ経絡です。首の付け根にある大椎(ダイツイ)で督脈と6つの陽経は結ばれています。

陽経の気血が多ければ督脈に流れ、少ない時は督脈から供給されます。督脈に不調をきたした場合、脊椎が緊張し首から背にかけて反り返り腹部が前にせり出した姿勢になります。また陽経が乱れその影響は全身に及びます。

⑭ 任脈

奇経8脈の一つで12正経の陰の経絡(肝・心・心包・脾・肺・腎)の気血を調節する働きがあります。また、女性の月経や妊娠と関連の深い経絡です。任脈のツボは月経不順、不妊、おりものなどあらゆる婦人科疾患に非常に効果的です。男性の場合は前立腺肥大などに効きます。